

令和元年度 畜産試験場の試験研究推進方向

技術開発の方向

- 長野県の豊かな自然環境と大消費地に近い立地条件を活かし、畜産分野を担う専門試験場として、畜産生産者の「稼ぐ力」の向上につながる安定生産のための品種改良や技術開発、低コスト・省力化・軽労化のための技術開発を積極的に推進します。また、優良種畜の受精卵や精液・雛の配布を図るとともに、畜産環境や家畜のストレス低減のための技術開発に取り組みます。
- 国、県、民間企業等との連携を一層深めることにより、実用性の高い研究成果を早期に得るとともに先進的な技術開発の推進に努めます。

試験研究のねらい

I 魅力あるオリジナル品種の開発と多分野連携

- 新たな遺伝的評価法による黒毛和種の改良と多様なニーズに対応した新しい地鶏の開発に取り組みます。
- 多分野と連携した先端的な農業技術の開発に取り組みます。

II 生産現場の課題を解決するための技術開発

- 畜産物の安定生産と家畜の繁殖性を向上させる技術の開発に取り組みます。
- 飼料の安定生産に向けた飼料作物新品種・栽培技術の開発に取り組みます。
- 家畜・飼料作物生産の低コスト省力化及び家畜のストレス低減のための技術開発に取り組みます。

主要課題とその内容

- I-1 ゲノミック評価による黒毛和種種牛の改良 (H30~R4 年)
 - ・ ゲノミック評価と受精卵移植技術を活用して枝肉重量と脂肪交雑に優れた種畜を作出します。
 - ・ 受胎率向上のための体外受精卵の選卵技術や凍結保存法を開発します。
- I-2 新たな信州オリジナル地鶏の開発 (H30~R4 年)
 - ・ うま味のバランスが良く、発育が良好で早期出荷が可能な地鶏を開発します。
- I-3 簡易低コスト自動給餌システムの開発 (H30~R4 年)
 - ・ 中小規模酪農家が投資可能な簡易低コストTMR自動給餌機を開発します。
- II-1 高糖分高消化性稲ホールクroppサイレージの泌乳牛への給与技術の確立 (H27~R1 年)
 - ・ 「たちすずか」などの飼料イネ新品種を活用し、低コストで飼料自給率の高い乳牛の飼料給与技術を確立します。
- II-2 乳・肉用牛子牛の哺育・育成改善技術の開発 (H30~R3 年)
 - ・ 発育不良要因の解明と哺乳期及び育成期の栄養管理技術を確立します。
- II-3 乳牛の繁殖性向上技術の開発 (H30~R4 年)
 - ・ 牛群検定成績を活用した繁殖性に優れた乳牛の遺伝形質の解明と遺伝形質改良手法を実証します。
 - ・ 乳牛の性選別精液を利用した体内受精卵の正常卵率及び受胎率の向上技術を確立します。
- II-4 受精卵を活用した肉用牛増産技術の開発 (H30~R1 年)
 - ・ 低ランク卵の受胎率を向上させるプロテアーゼ（蛋白分解酵素）による孵化補助技術を開発します。
- II-5 快適な繋ぎ飼い牛床モデルの開発 (H30~R4 年)
 - ・ 乳牛のカウコンフォートを考慮した快適で衛生的な繋ぎ飼い牛床モデルを開発します。
- II-6 子豚の生産効率向上技術の開発 (H30~R5 年)
 - ・ 多産系母豚を用いた飼養管理改善による子豚生産頭数増加技術を開発します。
- II-7 特色ある豚肉の低コスト生産技術の開発 (H30~R2 年)
 - ・ ワイン粕等地域資源給与による特色ある豚肉生産技術を確立します。
- II-8 極晩生ソルゴー型ソルガム新品種の育成 (H30~R1 年)
 - ・ 繁殖農家向けの耐倒伏性及び選好性に優れた極晩生ソルゴー型ソルガム新品種を育成します。
- II-9 水田転換畑における子実とうもろこし生産技術の開発 (H30~R2 年)
 - ・ 施肥法改善などによる水田転換畑における子実とうもろこし増収技術を確立します。
- II-10 牧草・飼料作物奨励品種選定試験 (H30~R4 年)
 - ・ 収量性が高く、長野県の気候に適した牧草、飼料用とうもろこし及びソルガム品種を選定します。
- II-11 大規模飼料生産組織に対応した省力管理技術の開発 (H30~R4 年)
 - ・ 大規模飼料生産組織のための草種、生産工程の探索及び生産性の実証を行います。